

蒲生干潟の地形調査①

■分断された潟湖

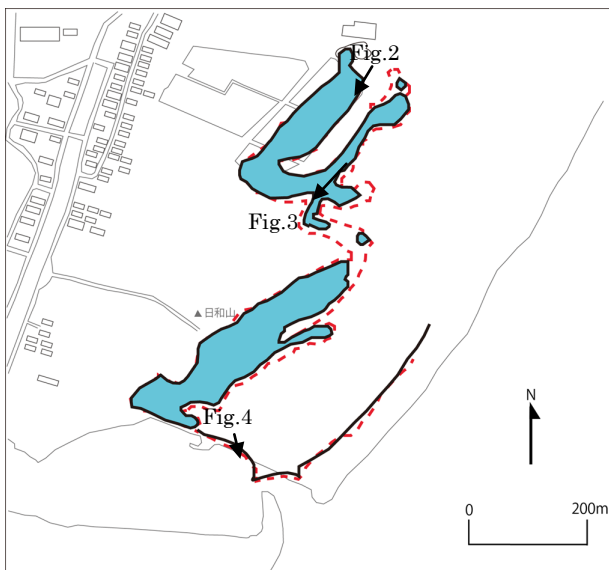


Fig.1 GPSによる簡易測量結果



Fig.2 孤立した潟湖北側付近



Fig.3 金属製の漂着物



Fig.4 河口のようす

調査日 2017年1月6日（金）9：30～11：00 ※満潮時刻9：14（潮位128cm）

Fig.1の黒線で示されたものはGPS簡易測量による1月の汀線、赤線の破線でしめされたものは12月のそれである、また図中の矢印は写真撮影の方向を表している。Fig.1からもわかるように潟湖が中央部分を境に2分しており潟湖の水位が著しく低下していた。また、Fig.2のように潟湖の北側の部分は孤立していた。Fig.3の漂着物は12月の調査で移動が確認された金属製の漂着物であるが、そのまわりは干上がっていた。

導流堤通水部分では3ヶ所とも、川側から潟湖への流水が確認され、導流堤の南側は12月同様に砂州が無い状態のままであった。

河口付近では、右岸側は海に面した東側での堆積が進み砂州が拡大していた。左岸側は護岸ブロックの南側の堆積が進み、河口が狭くなっていた(Fig.4)。